東京日日新聞　昭和十五年八月二日

先づ南方策推進

對獨伊米折衝

近衛内閣の外交方針は一日の政府聲明及び外相談話をもつて中外に宣明されたので松岡外相は同日直ちに在外使臣に新外交方針を説明し内外呼應して關係國との間に活潑なる外交戰を展開することとなつた、しかして新外交方針の重點が大東亞共榮圏を確立することによつて國際的大變局を指導しもつて世界の新秩序を建設するにある關係上當面の問題としては南方政策の積極的推進が取り上げらるべくこれと關聯して對獨伊關係、對米關係等における外交折衝が活潑に展開されるものと豫想される松岡外相としては當分音無しの構へによつてこれら關係國との外交的打診を行つた上、帝國の外交的性格を明確に中外に宣明し得る時期に至れば更に外相聲明をもつて關係國との具體的外交方策を公表することゝならう、從つてさして遠からざる通常の機會には新外交の實質的全貌が中外に宣明され、世界の新體制に對する帝國の重大役割がはつきり國民の前に示されることゝならう

員一行が期日までに到着出來ないことになり第一回會議は八月三日に行はれることゝなつたので七月廿六日新京を出發した滿洲國側村、滿蒙劃部會委員一行はその後哈爾濱に滯在中であつたが卅一日哈爾濱發一日午後五時卅分滿洲里から國際列車でチタに向つた

東京日日新聞　昭和十五年八月三日

東亞共榮圏の確立へ

蘭印へ小磯大將特派

國策具現化の第

近衛首相は一日午後、目下北海道、樺太地方を視察旅行中の前拓相小磯國昭大將に招電を發し、小磯氏は急遽歸京することとなつた首相の招電は政府が異常なる決意をもつて遂行せんとする東亞共榮圏の確立に關し小磯氏を蘭領東印度に特派大使として派遣するに決し小磯氏の承諾を求めんとするもので小磯氏は歸京の後首相並びに松岡外相と會見、南方問題に關し腹藏なき意見交換の上諾否を決することにならうが、受諾確實と見られる、小磯氏は去る卅日午後六時東京發、北海道、樺太視察に赴くに際し出發直前、近衛首相を訪ね、小磯氏がかねて抱懐する南方政策の強行推進について首相に積極的進言してをり、首相が小磯氏の進言に動かされた結果、同氏派遣を決意するに至つたものと見られる、政府が小磯氏を起用せんと決意するに至つた經緯は政府が一日中外に闡明した基本國策大綱において特に外交問題については「國際的大變局を達觀し建設的にしてかつ彈力性に富む施策を講じ以て國運の進展を期す」旨を闡明し更らに松岡外相はこれを敷衍し「大東亞共榮圏の確立」を強調してをり、この見地から特に國防的、經濟的關聯において新たなる生命線ともいふべき蘭印に對しては不動の國策をもつて臨むことを示唆してをり、この政策具現化に當つてその第一段階として小磯特派大使を送り蘭印當局との間に東亞共榮圏確立を樞軸とする外交調整を行はんとするに至つたもので、小磯氏は米内內閣の拓相として獨自の南進論を掲げて蘭印に對しての積極的外交調整を強調して來たので現內閣がその手腕力量を買つて縦横に揮はせんとするもので頗る注目される

（寫眞は小磯氏）

B-0163

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/